

一、次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

昔、秀才で有名だった私のボーイフレンドの息子が、登校拒否になった時、私はそれを

① 大した悲劇だとは思わなかった。私はまずボーイフレンドに向かって②「あなたが悪いのよ」と言った。

「お父さんが東大法学部出身なんて、息子に A 重圧をかけるだけですからね。父親より秀才になるなんてこと、できないわけだから、最悪だわ」

実は私が登校拒否の B ジジツを重大視しなかったのは、全く別の理由からだった。私は自分の息子と同じくらいの年頃の、その「登校拒否さん」と会ういつも会話が楽しかったのである。その時彼はまだ中学生だったと思うのだが、彼は私に自分が今「凝^こっている」ビートルズや、他のグループ・サウンズなどの話を解説的にしてくれて、私は大いに新しい C チシキを得たし、彼の考え方に眼を開かされたような気がしたのである。

つまり彼は、中学生でも、立派に大人の話し相手ができる子だったのである。こんな優秀な子が落ちこぼれなどであるわけがない。しかしとにかく彼は登校を拒否していて、成績も悪かったのである。今でも言えることは、登校拒否したような子供で、劣等生^{れつとうせい}は一人もいないのではないか、ということだ。

私は思いついて、秀才のお父さんに、^あ或るキリスト教系の寄宿学校を紹^{しょうかい}介した。家と親から彼を引き離すことがまず大切なことだ、と D セクセンテキにも言われていたからである。学校側も事情を理解してくれ、親たちも納得して、彼は生まれて初めて生家から離れて近県で暮らすようになった。

学期の初めに、クラス分けがあったという。もちろん学力テストの結果であった。その結果、彼はもつとも学力の低い組に入れられた。

③「よかったわねえ」と私は言った。

「そこでわからないところを初めからていねいに教えてもらえる、ってことじゃないの。それに今以上落ちる方法がないんだから、あなたは実にいいところにいるんだわ。後は上がるだけじゃないの」

中学生は私の言い方におかしそうに笑ってくれた。人間、現状を客観的に見て笑えれば、たいていの窮地^{きゆうち}から脱出できるのである。途中を E 省^{しやう}いた報告をすれば、彼は立派に立ち直り、父親と同じ東大法学部^{とうだいはく}にこそいかなかったが、立派な社会人になった。中学生時代の挫折^{さつせつ}など、笑い話になったのである。

いいだけの人生もない。悪いだけの生涯もない。ことに現在の日本のような恵まれた状況では、そのように言うことができる。それでもなお、多くの日本人が④不平だらけなのだ。

まず私の実感を述べておこうと思うのだが、もし人生を空しく感じるとしたら、それは⑤目的を持たない状況だからだと言うことができる。

たとえば高齢者に多いのだが、朝起きて、今日中にしなければならぬ、ということが何もない。だからどこへ行ったらいいのか、何をしたらいいのかわからない。どうして時間をつぶそうかと思う。時間というものは皮肉な「生き物」で、することがたくさんある健康人にとっては素早く経っていくものなのに、することのない人や病人には、きわめて

のろろとしか経過しないものなのである。絶対時間というものは果たしてあるのだろうか、と思うくらい ⑥ 心理的なものだ。

年齢にかかわらず、残りの人生でこれだけは果たして死にたいと思うこともない、と言う人は実に多い。諦^{あきら}めてしまったのか、もしかすると、⑦ 目的というものは偉大なものであるべきだ、と勘違いしているからか、どちらか私にはよくわからない。

私の目的は、多くの場合、実に小さい。今日こそ入院中のあの人に少しは退屈紛^{まぎ}らしになるような手紙を書こう。冷蔵庫の中の長ネギ二本を使ってしまった。引き出しの三段目の中で散らかっているクリップやメモ用紙を整理しよう。その程度のものだ。そしてそれだけ果たすと、私は満足と幸福で満たされる。我ながらかわいいものだ、と思う。

「人間にとって成熟とは何か」 曾野綾子

問一 二重線部 A～E のカタカナを漢字に、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①「大した悲劇だとは思わなかった」について、私がその理由を述べている部分を解答用紙に合うように二十四字で抜き出さない。(句読点も字数に含みません。)

問三 傍線部②『『あなたが悪いのよ』と言った』について、私がその言葉を言った理由として最も適切なものを次から選びなさい。

ア 息子を甘やかしていたから。

イ 息子を冷やかしていたから。

ウ 息子に重圧をかけていたから。

エ 息子に頼っていたから。

問四 傍線部③「よかったわねえ」について、筆者がこのように話したのは、どのような意図があるからですか。それがわかる一文を抜き出し、はじめの五字を答えなさい。(句読点も字数に含みます。)

問五 傍線部④「不平」について、意味として最も適切なものを次から選びなさい。

ア 満足しないこと。

イ 心がおだやかなこと。

ウ 不満に思わないこと。

エ 満足すること。

問六 傍線部⑤「目的を持たない状況」について、どのような状況を言っていますか、本文中の言葉を用いて、三十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑥「心理的なものだ」について、筆者は何を心理的だと言っていますか、漢字二字で抜き出さない。

問八 傍線部⑦「目的というものは偉大なものであるべきだ、と勘違いしている」について、筆者は目的はどのようなものであると主張していますか。最も適切なものを次から選びなさい。

- ア 今できそうにない、とても大きいことだけを目的とすると空しくなるが、身近な自分が今できることを目的とし、成し遂げることで満足することができる。
- イ 今できそうにない、とても大きいことを目的とすると希望に胸が膨らむが、身近な自分が今できることだけを目的とし、成し遂げることで満足できない。
- ウ 今できそうにない、とても大きいことだけを目的とすると空しくなるし、身近な自分が今できることを目的とし、成し遂げることで満足できない。
- エ 今できそうにない、とても大きいことだけを目的とすると満足でき、身近な自分が今できることを目的とし、成し遂げることで満足できない。

二、次の文を読み、以下の問いに答えなさい。

① 星のかけらの伝説をぼくに教えてくれたのは、塾の友だちのマサヤだった。

「伝説っていうか、ウワサなだけだよ」

マサヤは言った。

「ネットかなにかの？」とぼくは訊いた。

「違う。中等部の先輩が言ってた」

マサヤは私立大学の附属小学校に通っている。A 地元の公立に通うぼくと顔を合わせるのは、週に三日ある塾の時間だけだ。学校の違う子とB ナカヨくなつたのはマサヤが初めてだった。そしていま、ぼくの友だちは、マサヤしかない。

「ここ大事だから、もう一回だけC トクベツサービスで言っちゃうぞお」

塾で算数を教えるカタオカ先生のD 物真似をして、マサヤは話を繰り返した。

「星のかけらがお守りになるんだ」

「うん……」

「それを持つてると、嫌なことやキツイことがどんなにたくさんあっても、しつかり耐えられるんだよ」

「でも、星のかけらって、ホンモノの星のかけらなの？」

ぼくの質問に、マサヤはあきれ顔で笑った。

「そんなこと言ったら、石ころだって地球って言う星のかけらだよ？」

確かにその通りだった。

② 「星のかけらっていうのは、たとえなんだよ」

ぼくは黙ってうなずいた。同じ六年生でも、マサヤはぼくよりずっとオトナっぽい。私立の名門校に通っているからなのだろうか。それを言くと、いつも「関係ねーよ」とオトナっぽく怒られてしまうのだけど。

「ユウキだったら、どんなものを星のかけらにたとえる？」

ぼくは黙ったまま、今度は首を横に振った。国語はE ニガテだ。テストではいい点がとれても、「自由に想像して書きなさい」とか「思いつくものを挙げてみなさい」という

質問があると、たちまち頭の中が真っ白になってしまつて、鉛筆が動かなくなる。

マサヤもそのことを知っているから、③ ぼくの答えを待たずに、あつさりと正解を教
えてくれた。

「自動車のフロントガラス」

割れて小さな破片になったフロントガラスが、星のかけら。

「じゃあ、クイズをもう一問、フロントガラスが割れるのつて、どういふときだと思ふ？」

「……交通事故」

マサヤは親指と人差し指で○をつくつて、「交通事故の現場に落ちてゐるんだ、星のかけらは」と言つた。

昼間だとよくわからない。探すのなら、夜がいい。

「キラキラ光つてゐるんだつて。街灯の明かりや月明かりに照らされて、道路のあつちこつちで光つてゐるのがすごくきれいで、夢の中の世界みたいなんだ」

「見たことあるの？」

「ないよ、だからウワサだつて言つてゐるだろ」

「中等部の先輩は？」

「その先輩もウワサで聞いただけだから」

なんだ、とぼくは④ 笑つた。ちよつと拍子抜けして、がっかりした。

「でも、きれいだと思わないか？」

真夜中の道路を思い浮かべた。車の流れが途絶えて、しんとした道路に、数え切れないほどのフロントガラスの破片が散らばつて、キラキラ光つてゐる。

ほんとだ、と⑤ 思わず声が出そうになつた。悲惨な交通事故の現場を美しいと思ふのは、間違つてゐる。それはわかつてゐても、やっぱり、きれいだ。

ぼくはなにも言わなかつたけど、きつと横顔の表情で伝つたのだろう、マサヤは「なつ？」と笑つて、話をつづけた。

「そこから先は、いろんな説があるんだ、そのウワサ」

「そうなの？」

「うん……中等部の先輩もよくわからないつて言つてた」

どんな場所のどんな星のかけらでもお守りになる、というわけではない。⑥ 厳しい条件を満たした星のかけらでないと効き目がないらしい。その条件が、ウワサを話すひとによつてさまざまなのだ。

「ひとが死んだ事故じゃないとだめだとか、逆に、ひとが死ななかつた事故じゃないと意味がないとか、死んだのがオレらみたいな小学生じゃないとだめだとか、その反対で、小学生の子どもだけが生き残つてないといけないとか……」

わけわかんないだろ、とマサヤは笑つた。ぼくはうまく笑い返せなかつた。小学生が死ぬ。「もしも」や「万が一」の話ではなくて、そんな交通事故は毎日のように起きている。ぼくやマサヤだつて、いつ自分がそうなつてしまふかわからない。だから、むしろ胸がドキドキする。

死ぬ。死ぬ。シヌ。英語で言つたら、デッドだつて、デスだつて。四年生や五年生の頃には平気でつかつてゐたのに、最近「死ぬ」という言葉が怖い。口にしたり、耳にしたり、読んだり、書いたりするたびに、息が詰まるような苦しさに襲われる。いつからそう

なってしまったのか、なんとなく見当がつくから、いまは考えたくない。

「それでさ……」とマサヤがさらに話をつづけようとしたら、休み時間の終わるチャイムが鳴った。

「はい、教室に入りなさい」

事務長のおばさんの声に、廊下に出て遊んでいたみんなは教室に駆け込んだ。

「ユウキ、行こう」

マサヤにうながされて、ぼくはみんなの最後に教室に向かう。途中で追いついてしまわないように気をつけて、ゆっくりと。

教室に向かいながら、マサヤは言った。

「星のかけらって、いいと思わない？」

黙ってうなずくと、「探してみろよ。どこかに落ちてるかもしれないぜ」とつづけた。

「うん……」

「オレ、おまえには星のかけらが必要だと思う」

きっぱりと言ったマサヤは、受験コースの教室の前にたむろしていたヤツらを「そこ、じゃま」とにらみつけた。

ぼく一人だったら絶対に足をひっかけられる。背中を蹴られるかもしれない。でも、ヤツらはすぐにマサヤから目をそらし、こそそと教室に入ってしまった。

⑦その背中をにらんだまま見送りながら、マサヤはつぶやくように言った。

「星のかけら、あるといいよな、ほんとに」

ぼくは小さくうなずいた。

じゃあな、とマサヤは軽く手を挙げて、自分の教室に向かった。中学にはエスカレーター式に進学できるマサヤは、マンツーマンの英会話講座を受けているのだ。

授業中は別々の教室なのに、休み時間は、みんなからいじめられているぼくを守るために一緒にいてくれる。マサヤは優しい。優しいから、星のかけらの話だって、もしかしたら――。

マサヤは英会話の教室に入るときにぼくの視線に気づき、おまえも早く教室に入れよ、というジェスチャーをして笑った。

ぼくも笑い返す。でも、ほんとうは、⑧ ちよつと泣きたい気持ちでもあった。

マサヤに助けてもらったあとは、いつもこうなる。

「ありがとう」と言えばいいのか、「ごめんな」と言ったほうがいいのか、それともまったく違う言葉を言わなくてはいけないのか。

マサヤはそばにいたときには、いじめに遭^あわない。その代わり、ゲームみたいに「臆病者」「弱虫」のポイントがどんどん貯まっていく気がする。

それがいつも悔^{くや}しくて、ときどき悲しくなっていて、自分の事が嫌いになっちゃおうときだあって、ある。

「星のかけら」重松清

問一 二重線部A～Eのカタカナを漢字に、漢字をひらがなにしなさい。

問二 傍線部①「星のかけらの伝説」について説明した次の文の（ ）にあてはまる言葉を、（ ）内の字数で本文中より抜き出さない。

星のかけらは（三字）になり、それを持っていると嫌なことや（五字）があっても耐えられるようになるということ。

問三 傍線部②「星のかけらについていうのは、たとえなんだよ」について、星のかけらは、何のたとえですか。本文中より抜き出さない。

問四 傍線部③「ぼくの答えを待たずに、あっさりと正解を教えてください」について、なぜマサヤは正解を教えてくださいましたのですか。最も適切なものを次から選びなさい。

ア ぼくはテストではいい点が取れないが、作文は得意だったから。

イ ぼくはテストではいい点を取れても、想像して書くことがニガテだったから。

ウ ぼくは作文は得意ではなく、想像して書くこうとすると時間がかかるから。

エ ぼくは作文は得意で、テストで点数を取ることよりも積極的になれるから。

問五 傍線部④「笑った」について、その理由として最も適切なものを次から選びなさい。

ア マサヤの拍子抜けしてがっかりした様子に心配したから。

イ マサヤが親指と人差し指で○を作ってくれてうれしかったから。

ウ マサヤがとてもたくさん楽しい話をしてくれるから。

エ マサヤの話があくまでもウワサで、実際に見た人がいないから。

問六 傍線部⑤「思わず声が出そうになった」について、その時の主人公の思いとして最も適切なものを次から選びなさい。

ア 「本当に静かだね」

イ 「本当に怖いね」

ウ 「本当にきれいだね」

エ 「本当にさみしいね」

問七 傍線部⑥「厳しい条件」について、条件にふさわしくないものを次から選びなさい。

ア ひとが死んだ事故じゃないとだめ。

イ ひとが死ななかった事故じゃないと意味がない。

ウ 大人だけが生き残ってないといけない。

エ 小学生の子どもだけが生き残ってないといけない。

問八 傍線部⑦「その背中をにらんだまま見送り」について、マサヤはなんのために、にらんでいたのですか。本文中より二十字で抜き出さない。

問九 傍線部⑧「ちょっと泣きたい気持ち」について、そのような気持ちになった理由が述べられている部分を抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。（句読点も字数に含めます。）